

教育活動研究		演習	講師 堤 ひろゆき
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	25200204

1. 授業のねらい・概要

学校でなされる教育活動は非常に多様であり、教員や生徒をはじめとして、多くの人に関わることによって成り立っている。近年では、教育課程に位置付けられる活動にとどまらない活動も多様化し、とりわけ部活動などにおいて利点と問題点が指摘される。教員として学校での教育活動に関わらなければならない中で、学校における活動全般を理解し、よりよいものにしていく理論的な力と実践力の重要性は増している。本講義では、特に学校での教育活動について理解することをテーマとしており、受講者が課題を発見し、改善策を提示できる理論的な実践力を身に付けることが目指される。

2. 授業の進め方

講義形式も取り入れるが、各回に担当者を割り振り、文献講読、各受講者の興味に基づく報告と議論等を重視し、演習形式によって探求力を身に付ける。その上で、複数回学校の教育現場での実地研究を行う。

3. 授業計画

1. 学校での諸活動を考える意義（ガイダンス） 2. 学校行事の歴史と実践 3. 部活動の歴史と実践 4. 部活動の現在を理解するための理論 5. 学校での教育活動についての報告・議論①（部活動の諸問題）	6. 学校での教育活動についての報告・議論②（学校への外部人材活用の可能性） 7. 学校での教育活動についての報告・議論③（学校と地域との関わり） 8. 総括 ※履修中に複数回の実地研究を行う。
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

現在の学校教育活動についてのニュース等を集め、分析するために1時間程度を要する。また、復習に1時間程度、予習に2時間程度を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

報告時に口頭にて講評を行う。

6. 授業における学修の到達目標

学校における活動全般について、基礎的な知識と理論を理解し、習得することをテーマとする。

学校における活動全般の利点や問題点について発見し、改善するための方法を考え、自分の言葉で記述することができる。

学校における活動全般を取りまく状況を理解している。

7. 成績評価の方法・基準

実地研究でのレポート（25%）を基本とし、受講態度（25%）、報告への取り組み（25%）、講義への参加度（25%）を加味して総合的に判断する。

8. テキスト・参考文献

講義時に指示する。

9. 受講上の留意事項

実際に学校教育現場へと向かう前に文献研究を中心として基礎を身につけることを希望する。その上で実地研究を行うため、それを念頭に置いて受講すること。

年度初めのガイダンス等で受講上の注意点をよく理解すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。